

西神田町会

YouTubeチャンネルを活かし
身近な地元情報や町会行事を動画で紹介

内容

町会行事やご近所の様子や地域のイベントなどの地元情報を、YouTubeチャンネルで紹介。

背景

コロナ禍に高齢者向けのLINE講座をしたが、結局使われないため、「おもしろそう」というスマホを使うきっかけを提供したい、動画を一緒に作ることでつながりを作りたいと考えたため。

工夫していること

誰でもできるように、スマホで、撮影・編集し、短い動画を作成。ご近所の様子を伝え、身近に感じてもらえるように。また、担当も楽しみながら、楽しい動画を作成。

地域でおきていること

動画の撮影・編集が得意な人がメンバーに、また、内外に町会行事や様子が伝わるようになった。将来的には、町会員がそれぞれで撮影・投稿できるようにしたい。

ポイント

- ✓ 手軽に、気軽に動画制作・投稿
- ✓ 自分の「したいこと」「できること」ができる町会
- ✓ 楽しんで活動することが、町会の魅力を伝えることに

西神田町会遊歩部 (YouTubeチャンネル) トップ画面



編集講座の報告動画



角田 光正会長



<https://www.youtube.com/@24kanda>

東松下町々会

新しい人とコミュニティづくりを目指し
誰もが参加できる多彩なイベントを実施

内容

新しい人も気軽に参加できる「町会って楽しそう」と思ってもらえるイベントを多彩に開催。また、HP、SNS、紙媒体と、多様なメディアで町会の行事や取組を発信。

背景

小学校跡地に建設された区営及び民間の集合住宅の新しい住民（従来の居住者の4倍以上）をどう受け入れ、一緒にコミュニティを作っていくかが、課題となっていた。

工夫していること

参加してもらうことが一番と、町会の加入の有無にかかわらず地域の子どもたちが参加できるラジオ体操や1年生を迎える会などのイベントを開催。イベント参加した保護者が必要を感じたら加入してもらえるように期待。イベントには地域の企業や団体の協力を得ることも。

地域でおきていること

民間集合住宅も3割程度の人が町会に加入。子どもが増えたことが地域の活性化にもつながっている。

ポイント

- ✓ 自分から入りたい!と思える町会に
- ✓ イベントはまずは誰もが気兼ねなく参加できるように
- ✓ 新しいコトは、何かできそうなことからやってみる

子どもたちが楽しめるイベントの開催



写真コンテスト



たくさんの作品が応募されました



町会の方に皆の写真を提供していただき、現在の様子と見比べました



<https://higashimatsushitacho.tokyo/>

富士見二丁目町会

ミニイベントとLINE公式を活かし、
新しい人との多様な接点をつくる

内容

「役立つ」と「楽しい」の2軸のミニイベントを数多く実施 (LINE教室、ミニ四駆イベント、クリスマス会など)。LINE公式での町会や地元情報の発信。

背景

町会内の一部のマンションの全戸加入がなくなり、個人で加入してもらえるようなPRが必要に。また、HPの閲覧数が伸びないため、新たな接点を作る必要がでてきた。

工夫していること

役員でイベントアイデアを出し合い、実施は法政大学の学生や地域の育児サークルなどと連携したり、協力してもらっている。イベント参加者にはLINE公式のQRコードを紹介し、継続的に情報を届けられるようにしている。

地域でおきていること

子供向けイベントは400人以上が参加するイベントに。ここからどれだけ町会加入につながるかは、これから。

ポイント

- ✓ イベントと情報提供のセットで、接点をたくさんつくる
- ✓ 自分たちでできないことは、他の団体の力を借りる
- ✓ 町会に入ると「役立つ」「楽しい」を見せていく

ミニイベント



二丁目広場でもまつり



鍋木雅裕町会長



及川浩二郎副町会長
(総務広報部部長)



ホームページ

<https://fujimi2.sakura.ne.jp/>

飯田町町会

地域の人にあまねく情報を届けるために
町会HPとLINE公式を開設

内容

在住、在勤など地域のすべての人たちに必要な情報を届けるため、町会が知っている情報や町会活動情報をホームページ (HP) とLINE公式で情報発信。

背景

町会には区や色々な機関からの情報が大量に届いているが、全てを届けられない状況だった。特に一部の人のみ必要とする情報は届きにくいという懸念もあった。LINEはお年寄りも使っている人も多いため、有効と判断。

工夫していること

HPやLINE公式には、千代田区や千代田区社会福祉協議会、地元の商店会のHPへつながる入り口も掲載。必要としている人が必要な情報にたどり着くように工夫。

地域でおきていること

HP開設の試行中にも、2人から町会加入の申し込みがあった。地域のためにという思いや姿勢に共感した人が町会に入ってくれるのではと考えている。

ポイント

- ✓ 地域のすべての人に貢献できる町会に
- ✓ 町会が地域の人に情報を届ける入り口に
- ✓ LINEの特性を活かし、情報発信

飯田町町会ホームページ トップ画面



LINE公式画面



松村 善一会長



ホームページ



<https://iidamachi.com/>

自己紹介 5つの質問を使って、交流してみませんか？

千代田区で多様な分野、テーマで活動する人が交流するイベント「ちよだコミュニティラボライブ！2023」が2023年3月11日に開催されました。町会、地域活動、サークル、大学などの活動に参加する約70名が、自分が活動を始めたきっかけ、楽しさ、苦労・工夫、これからのことを「自分のストーリー」として話し、交流しました。

区内では多種多様な活動者がいますが、異なるテーマの人が出会う機会は少なく、知り合えていません。

町会長、マンション住民、学生が共通の「自己紹介 5つの質問」を使って話すことで、初めて会った人の間にも共感が生まれていました。

参加者の声より

○千代田には、こんなにたくさんのそれぞれ違うことをやっている人がいるんだとびっくりした。

○活動名は知っていたが、なぜ始めたのか、何が楽しいのかわかって、参加してみたくなった

○自分を開示することから交流が始まると思った

この交流で新しい人とも、前から知っている人とも距離が近づくと好評をいただきました。地域の活動でも総会や交流会などで「自己紹介 5つの質問」を使ってみませんか？

内神田鎌倉町会
斎藤会長への5つの質問



1. 町会長、民生委員をしています
2. 生まれた時から神田のまちに関わっています
3. 久しぶりの祭りをみんなで準備するのが楽しいです。江戸最古町を若い世代につなげるよう続けてきました。
4. ブログで情報を共有し、活動を理解してもらう工夫をしています。それが祭りの寄付にもつながるでしょう。
5. 今のマンションの子どもが将来の町会長になるかも！

千代田で活動する多様な方の5つの質問の自己紹介を動画で掲載しています。

区内での活動を知るきっかけに、自分の活動で活用するヒントにご活用ください。

<https://x.gd/uRg1A>



千代田は「アーバニスト」のまち！
アーバニスト@千代田 で活動情報を発信しています

個人の思いから始まる活動を通して、地域の魅力と暮らしやすさを高める。その動きをする人は、「アーバニスト」と呼ばれています。千代田で個人から始まる動き、町会やサークルの活動を紹介するサイト「アーバニスト@千代田」を公開中。ぜひご活用ください。



【自己紹介 5つの質問】

1. 今、どんなことをしていますか？
2. それを始めたきっかけは？
3. 楽しいことは？ 続けている理由は？
4. 苦労や難しさは？どんな工夫をしている？
5. これからしたいことは？

岩本町三丁目町会 企画広報部長
早川さんへの5つの質問



1. 岩本町・東神田ファミリーバザール実行委員会
2. 出展企業でしたが町会役員さんに誘われて
3. 会の運営を通し地域活性化に貢献できること。町会で神田祭に参加し、そこでもつながりが広がりました
4. 家族連れや若手の参加を促すようLINEでの情報交換や役割分担の偏りをなくすなどの工夫をしています。
5. どちらの活動も理解を広げ、参加者を増やしたいです

まちの歴史をコミュニケーションのきっかけに！
オンラインちよだ探訪（麹町・番町）レポート

新しく住み始めた方も、住む町の歴史への関心を高く持っています。六番町町会 新井会長が地域の歴史をオンラインでお話しされ、マンション住民も多数参加したイベントのレポートを配布中です。

ちよだコミュニティラボ

区内の活動する人をつなぐ、活動の情報発信、運営の活性化の相談・サポートを行っています。

chiyolab.jp

事務局
千代田区コミュニティ総務課
株式会社エンパブリック

問い合わせ
千代田区コミュニティ総務課
03-5211-3656
komisoumu@city.chiyoda.lg.jp

町会の新しい取り組み事例集

～イベント開催の工夫やデジタル活用など～

町会活動に、より多くの人に参加してもらえるように、ホームページでまちの情報を共有する、オンライン・ツールを使ってコミュニケーションを活性化する、親子参加の交流の場をつくる、学生などの力を借りるなど、各町会で新しい動きが始まっています。

2023年3月22日に開催されたイベント「地縁コミュニティを未来志向で考えてみよう！」では、区内の町会の取組みが紹介されました。イベントでは、新しい人に関心を持ってもらうには「楽しい」を伝えることが大切という話にもなりました。

この資料では、イベントで紹介された事例の背景、工夫、ポイントなどをまとめました。町会活動のヒントとしてご活用いただければ幸いです。

多町二丁目町会

内容

都の「地域の課題解決プロボプロジェクト」を活用し町会独自のホームページを開設。町会員でない人向けにも、町会と神田祭を紹介するイベントを実施。

背景

町会の活性化のため、町会内にあるマンションのファミリー層との接点をつくりたい、町会の様子を発信し、多くの人に目にしてもらいたいという思いから。

工夫していること

HP上で明確に地域の住民へ呼びかけ、子どもが楽しめるイベントによりファミリー層との接点をつくる。イベント参加者にはHPのQRコードを案内し今後も情報を届ける。

地域でおきていること

「もっと知って神田」はお子さんが30人も参加するイベントに。今後も、毎年秋、開催していく予定。

ポイント

- ✓ HPを通じて、町会活動を内外に紹介
- ✓ 地域の住民（非会員の人）にメッセージを示す
- ✓ 「祭」を活かしたファミリー層へのアプローチ

HPでの情報発信
住民向けのイベント開催

多町二丁目町会 ホームページ



「もっと知って 神田！」イベント開催

田畑 秀二会長



ホームページ

<https://ta2member.wixsite.com/home>